

eALPS 活用実践事例紹介の3回目として、今号では、繊維学部での eALPS 活用例を紹介いたします。また、実習・演習形式の体育の授業で eALPS を取り入れている様子をメディアコーディネータがレポートします。

contents

e-Learning center newsletter No.8

続 eALPS 活用実践事例

- 事例6 学生の自発的取り組みを促す、繊維学部全1年生必修科目 1
- メディアコーディネータ Report No.2
- 「よい体育授業とは何か」授業を離れても本気で考えてほしい! 2

特集 続 eALPS 活用実践事例

事例6 学生の自発的取り組みを促す、繊維学部全1年生必修科目

情報提供:【繊維科学の基礎】繊維学部創造工学系(繊維・感性工学系) 教授 大越豊

【新入生ゼミナール】繊維学部応用生物学系(応用生物科学系) 准教授 塩見邦博

繊維学部では、1年生全員を対象とした必修科目で eALPS を大変有効に活用されています。上の2つのコースはどちらも10数名の先生方によるオムニバス形式で行われ、300名以上の学生が15回の授業を松本で受講します。eALPS のコース内には、各回に対応した15個のトピックスが用意され、使用する資料や小テストがアップされています。

学生を事前登録、複数コースをメタコース1つに

授業は4つのクラスにわけて行われますが、eALPS 上では1つのコース(メタコース)として管理しています。このコースは事前の依頼により e-Learning センターで作成し、学生の登録も4月初旬に名簿をもとに一括して行います。資料のアップや小テストの登録を行う場合、同じ作業を複数回行う必要がなくなります。各クラス共通の内容は一ヶ所(メタコース)で管理し、クラス毎に行う内容はそれぞれのコース(子コース)で管理するといったことも可能です。

毎回、小テストを実施して成績評価

「繊維科学の基礎」では毎回の授業ごとに小テストを実施し、その合計によって成績を評価しています。15回のうち9回は eALPS 上に用意した小テストを利用しています。コースのトップには、テストを受ける際の注意点や問い合わせ先なども詳しく掲載されています。

塩見先生 interview

このような形式で eALPS を使い始めたきっかけは?

「新入生ゼミナール」の授業では、そのシラバスに記載しているように学生が自分の頭で考え、自分の言葉で話し、自ら学ぶ姿勢を確実にすることを目的としています。以前は一方的に講義を行なうこともあったのですが、**学生の自発的な取り組みを促す授業スタイル**へと改革が求められました。そこで私たちは複数の教員がリレー方式で演習を行ない、学生は各授業の課題をこなすことにより、科学リテラシーと問題発見・解決能力の修得・向上を目指しました。しかしながら、1年生と教員とは松本と上田と離れて生活しているため、直に顔をあわせて綿密に課題について話し合う機会はあまりありません。そこで、現在の eALPS の形式を利用し、このシステム内で綿密に連絡し合い、課題の提供、レポートの提出を行なうようにしました。これにより学生は、**自律的、自発的に eALPS にアクセス**し、各自が自分でスケジュール管理をして授業へ取り組みなくてはなりません。

普段、eALPS をご利用でない先生方の反応は?

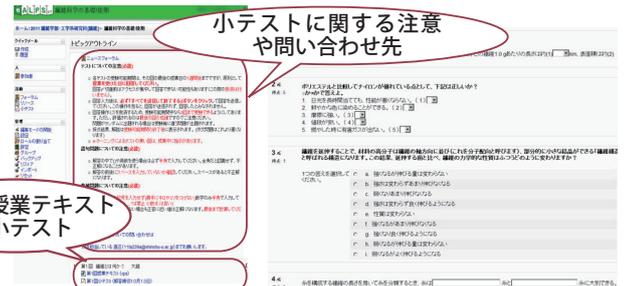
教員の反応は良いと思います。このスタイルにする前と後では授業内容に対する理解が数段上がったことが小テストの結果で分かったとの意見も頂いています。

メタコース機能はいかがですか?

使い心地は良いです。各教員がリレー方式で行う授業ですので、個別の授業における注意点や変更点などを各教員が迅速にアップできるのはメタコースの良さです。

気をつけている点はありますか?

4月の新入生ガイダンスの時に、頻りに eALPS を覗くように学生には注意を呼びかけます。また、緊急や特に重要な連絡などは eALPS を利用してメールを一斉送信します。



大越先生 interview

小テストの利用について、他の先生方の反応は?

先生によっては、eALPS ではなく授業内に小テストをされている方もおられます。採点は大変ですが、その場ですぐにリアクションが取れますので、それはそれで良いと思っています。

また、授業内の小テストと eALPS の両者を併用されている先生もかなりおられます。この場合は、前者で出席確認が基礎的な問題を解かせ、後者でもう少ししっかりした問題(教科書をしっかり読む必要があったり、計算を要する問題)を出しているようです。

一方で eALPS に慣れていない先生も多くおられますので、学部予算で TA を確保していただき、問題作成や採点の補助をしてもらっています。特に Cloze(穴埋め問題)は使いこなすと面白いのですが、プログラミングに慣れていないと敷居が高いのでシステム系の学生のサポートが大変有効です。

他の先生方にお勧めしたい eALPS の機能は?

とにかく大人数ですので、小テストの自動採点は大変助かっています。また、予め受講予定者を登録していただいているのも、トラブル防止の上で助かっています。キャンパスが離れていますので、学生とのコミュニケーションツール(主にメール)としても有効・便利です。



「よい体育授業とは何か」授業を離れても本気で考えてほしい！

将来教員になることを目指している教育学部の学生にとって「よい体育授業とは何か」を考えることは大切なことです。今回は教育学部スポーツ科学教育講座の藤田育郎先生の ICT 活用方法をお届けいたします。実習・演習形式の多い体育の授業でどのように e-Learning を取り入れていらっしゃるのか、メディアコーディネータがレポートします。

1. 動画配信で効率的な授業展開をしたい！

後期授業が始まってすぐのある日「eALPS で動画配できますか」と長野分室を訪ねて来られた藤田先生。3-4 年生対象の「中等体育科指導法演習」(32 名)は学生が中心となって模擬授業を行い「計画→実施→反省→改善」という過程を通し、体育授業にかかわる実践的な指導力を身につけることをねらいとした実習・演習形式の授業です。その模擬授業の様子をビデオ撮影し、学生同士で客観的に見て、振り返りながら授業を改善していくことに重点をおいていますが、授業時間内に撮影した映像を見ている時間がなかなか取れず、学生の負担にならない程度で映像配信を eALPS でできないかと考えられたようです。「授業以外の時間を活用するのは、学生にとって大変なことですが一週間の内 30 分でもいいから『よい体育授業とは何か』ということを本気で考えようと学生たちを励ましています」と藤田



先生は熱く語られていました。教室外での授業が多い体育授業で e-Learning をどのように取り入れていらっしゃるのか、私たちも興味津々。早速、授業を見学させていただきました。

2. 模擬授業で素材集め (計画→実施)

キンキンに底冷えする 1 月の体育館で、30 人ほどの学生が教師役と生徒役に分かれ、大きな声を掛け合いながら走り高跳びの模擬授業が行われていました。今日の授業担当は 4 名の陸上専攻。彼らは後期授業開始の時から学習指導計画案や教材作り、授業リハーサル等の準備を自分たちで計画し、進めてきました。指導案などは eALPS にアップロードしておくので、教師役以外の学生も模擬授業で実施する内容を事前に知ることができます。また、模擬授業の撮影も学生が行います。藤田先生は時々、教師役の学生の動きを中心にビデオをまわす学生に、撮影のポイントなどをアドバイスするくらいで、ほとんど口を出さず、遠くから温かく見守っていらっしゃいました。

そして、二つの模擬授業の後に必ず一回の「振り返り授業」を行います。この振り返りの授業こそが藤田先生が大切にしたい授業だということです。模擬授業はそのための「素材集め」の場にあたります。



3. 実習・演習形式の授業での ICT 活用 (反省→改善)

撮影されたビデオは藤田先生が 15 分くらいにまとめて編集し、翌日には e-Learning センター長野分室に持ち込まれ eALPS へアップロードされます。「映像編集は時間を要しますが教師役と生徒役のやり取りや声掛けなどポイントを押さえたビデオコンテンツにしたいので映像編集は自分でやりたい」とおっしゃいます。学生は配信された映像を閲覧しながら eALPS 上に用意されている「振り返りシート」へ模擬授業の評価コメントを書き加え eALPS の課題提出場所へレポートとして提出します。履修登録者全員が出しているか否か表示されるので成績評価の参考にしているといいます。授業めあての「計画、実施、反省、改善」の重要な部分で eALPS の「資料のアップロード、ダウンロード

《振り返りシートの記入例》

場面	出来事・事柄	評価 (○△×)	評価した理由	発展案や改善案	場面の全体評価 (1~5)
①	本時のねらいの説明	○	説明がわかりやすく、また声もはっきりしており、1 時間の流れを詳しく把握できた。	各グループの活動場所などをホワイトボードに示している、より分かりやすい。	4
	ウォーミングアップ	△	動きが単調で、運動量も少なかつたから。	跳び方のテンポを速くするなど、工夫が必要。	
	言葉かけ	○	例えを用いた分かりやすい言葉かけをしていたから。		

機能・動画配信・レポート提出機能・レポート評価機能」など、様々な機能をうまく取り入れられています。

4. 模擬授業をやりっぱなしで終わらないために・・・

「学生たちが一生懸命計画し、実施した模擬授業には、授業改善のためのヒントがたくさん詰まっています」と藤田先生。「もし e-Learning を取り入れてなかったらどのような授業をされていましたか？」とお伺いしたところ・・・「模擬授業をやりっぱなしで終わってしまうと思います。学生たちの反省する機会が少なくなってしまうのではないのでしょうか」とのことでした。e-Learning を推進している私たちにとって、改めてなるほどと



教育学部スポーツ科学教育講座 助教 藤田育郎先生

思われる生の声を伺うことができたように思います。突然の授業訪問にも関わらず、取材にご協力いただきました藤田先生、学生の皆さん、本当にありがとうございました。

eALPS の使い方は自由自在！これからも先生方のアイデアあふれる活用方法をメディアコーディネータがレポートさせていただき、e-Learning センターを通して、情報を共有化できるよう事例紹介させていただきたいと思っています。こんな使い方もある！という方、是非お声かけください。問い合わせ先メールアドレス：elearning@shinshu-u.ac.jp